

PRESS RELEASE

フィクション

今月出る本
6月刊
講談社

接力出版社(中国) × 講談社(日本) 交流30周年記念企画!

接力出版社は、中国国内で200万部超の『100万回生きたねこ』(佐野洋子)、「にじいろのさかな」シリーズ(マークス・フィスター)などのベストセラー作品を翻訳出版している出版社。2024年に交流30周年を迎えた記念企画として、接力出版社と講談社の絵本新人賞作品をそれぞれ翻訳出版するという企画が実現しました。日本からの翻訳出版は、いま話題の『ぎょうざが いなくなり さがしています』(玉田美知子)。(刊行時期未定)

中国の絵本新人賞受賞作品を
小川糸(『食堂かたつむり』)が翻訳!

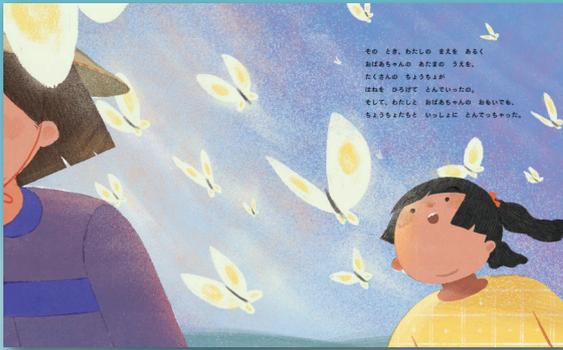
トウモロコシの おもいで

早秋丸 作 小川糸 訳

ご取材
ご相談
ください!



◆発売日: 2024年6月18日
◆定価: 1870円(税込)
◆AB判 32ページ
◆ISBN: 978-4-06-535774-3
◆第三事業本部 幼児図書編集チーム



世界中で人気の作家・小川糸さんが、「中国の方にたくさん小説を読んでもらっているので」と、翻訳を快諾。夏のトウモロコシ畑での孫と祖母のノスタルジックな一日を日本語で表現しきってくれました。八ヶ岳にも生活拠点がある小川糸さんは、トウモロコシもとても身近で、ご自身も「祖母が大好き」と語っています。

この作品は、早秋丸さんの実際の祖母との思い出を描いたもので、物語のなかで「ぜんぶ すっかり わすれちゃった」おばあちゃんは、認知症であると語っています。国は違っても、身近な家族を思う気持ちは同じ——そんなことを自然に感じる翻訳作品です。欧米の児童向け作品は数多く出版されていますが、身近なアジアの国の絵本の翻訳はまだ少なく、ぜひ読んでみてほしいです。

担当編集者より

早秋丸 (作) (ざおちう・わん) 絵本作家、イラストレーター。

大学では広告学を専攻。在学中から独学でイラストの製作を始める。2021年に自らの祖母との思い出を描いた本作『去翫玉米的下午 (QU BAI YUMI XIAWU)』で接力出版社の絵本新人賞を受賞し、絵本作家デビュー。

小川糸 (訳) (おがわ・いと) 作家、エッセイスト。

1973年生まれ。デビュー作『食堂かたつむり』(2008年)以来30冊以上の本を出版。作品は英語、韓国語、中国語、ベトナム語、フランス語、スペイン語、イタリア語など様々な言語に翻訳され、様々な国で出版されている。『食堂かたつむり』は、2011年にイタリアのバンカレラ賞、2013年にフランスのウジェニー・ブラジエ賞を受賞した。またこの作品は、2010年に映画化され、2012年には『つるかめ助産院』が、2017年には『ツバキ文具店』、2020年には『ライオンのおやつ』がNHKでテレビドラマ化された。『ツバキ文具店』『キラキラ共和国』そして『ライオンのおやつ』は、日本全国の書店員が主催する「本屋大賞」候補となった。最新作は、『椿ノ恋文』。



翻訳者取材調整いたします。お問い合わせください。

【お願い】本企画を取り上げいただく際は、お手数ですが下記部署宛にご連絡をお願いします。最新情報・確定情報をお知らせいたします。

講談社 宣伝統括部(メディアプロモーション)

担当: 二宮

〒112-8001 東京都文京区音羽2-12-21 Tel: 03-5395-3961(直通) Mail: medias@kodansha.co.jp